



ならずもの (YAHOO! JAPAN)

「ユニクロ」を展開するファーストリテイリング社の柳井正会長兼社長は、この度ノーベル医学生理学賞受賞者の京都大の本庶佑教授と山中伸弥教授の研究に対し、個人で総額 100 億円を寄付するとのこと。柳井氏が山口県内の同じ高校出身の本庶氏から 50 億円の寄付を打診され、柳井氏は快諾の上、山中氏にも同額の寄付を申し出たという。「本庶先生も山中先生も本物。私利私欲でなく全世界、日本のためにやっておられる」と高く評価しての快拳ではないのかと推察いたしております。それにしても、資産総額 2 兆 3870 億円ともいわれる日本の富豪ランクトップの柳井正氏（第二位は 2 兆 1940 億円の孫正義氏）の大盤振る舞いには感心するのみですが、桁違いの金額にまつわる話題をもう一つご紹介します。最近の週刊誌の写真記事や新書の紹介記事により手に取ることになった「ならずもの 井上雅博伝」というノンフィクション小説です。（森功著 講談社） —1996年1月、ソフトバンク社長室の一角で『Yahoo! JAPAN』は産声を上げた。専属スタッフわずか3名のその会社を、「年商1兆円」の巨大IT企業に育て上げた男、都営団地に生まれた庶民の子は、孫正義に見出され、ヤフーを爆発的に成長させ、サラリーマンでありながら1,000億円と言われる資産（おおむね自社株）を手に入れるのでした。（豊田喜一郎や松下幸之助、盛田昭夫や井深大といった会社の創業者ではなく）創業リスクを伴わない“日本一成功したサラリーマン”と称されたのが井上雅博その人でした。ただ、ひっそりと実業界を去った後の彼は、桁外れの趣味の世界に溺れ、17年4月にカリフォルニアのクラシックカーレースで非業の死を遂げることになるのです。（ご記憶の方もおられましょうが）ヤフー・ジャパンは創業から2年で株式を公開し、たちまち株式の時価総額は一兆円を突破、一株当たり一億六千万円という途方もない株価をつけたこともありました。現在、ヤフー・ジャパングループの年間売り上げは、一兆円に迫る勢いで伸長を続け、事業規模は七千億円の受信料を誇るNHKをはじめ、新聞各社やテレビ各局の名だたる大メディアをはるかに凌いでいるのです。ヤフーのはじまりは、アメリカの大学生が起こした小さなベンチャー企業でした。これに資本参加し、いち早く日本法人をつくったのが、ソフトバンクの孫正義氏であり、その腹心である本書の主人公、井上雅博氏です。Yahooとは『ガリバー旅行記』に出てくる獐猛（どうもう）な野獣の名、本書のタイトル『ならずもの』はそこから想を得てつけられています。ところで、日本のインターネット産業の裏面史を描いたといわれる本書には時代を超えたビジネス経営のヒントもたくさん盛り込まれています。◎「タイムマシン経営」…アメリカで成功したビジネスは、間違いなく5~10年後、日本でも成功する！ ◎トップは夢見るだけでいい。（孫氏が井上氏を評した言葉）“やはり人には器ってものがあるんですね。部長とか課長をやらずとどうしようもない男が、社長をやらずととつぜん大変身して大活躍する！”



ともあれ、一刻も早いコロナ禍の収束を願って止みません！

公認会計士 黒 沼 憲

